令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　藤木　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

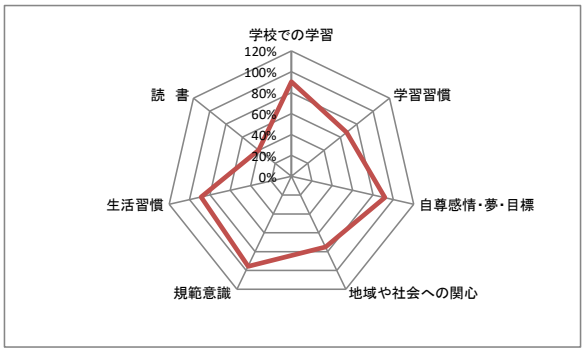
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・ 説明的な文章に関する問題の正答率が低い。 ・「漢字を文の中で正しく使う」、問題の無解答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・ スピーチの構成を考える・主語と述語の関係を捉える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・ 説明的な文章と図表と結び付けて必要な情報を見付けたり、要約したり、文章全体の構成を考えたりする問題の正答率が特に低い。	

算数	全体的な傾向や特徴など	・図形に関する問題の正答率が比較的高かった。 ・示されたデータや求め方を基に、理由や考えを記述する問題の無答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・図形と図形を合わせたものの面積を捉える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・示されたデータや求め方を基に、理由や考えを記述する問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・ すべての抜粋領域で全国の結果を下回っている。
・ 家庭学習の時間が1時間以上の児童の3割強と、全国より大きく下回っている。「参考になる自学ノートの紹介」や「藤木スタイルの徹底」等の取組を引き続き行い、家で計画を立てて学習をする習慣を身に付けるよう働きかけていく。
・ 読書を1日当たり1時間以上している児童が1割にも満たらず、全国より大幅に下回っている。また、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童が全国の半分以下であった。国語科学習や朝自習の時間等を活用し、読書習慣の定着を図ると共に、「携帯・スマホ電源10時OFF」を中学校・家庭・地域と連携して徹底していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・授業開始5分を使って、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、漢字を含む既習言語の定着を図る。
・算数科に重点を置いて問題解決型の授業づくりを日々実践し、研修を重ね、教師の授業力向上を図る。
・各教科で児童のつまずきを分析的に捉え、基礎的・基本的な知識・技能の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ フィルターの取付や使用時間など、中学校とも連携をして携帯・スマホ等の取扱いを児童に啓発し、管理の仕方や約束の内容を家庭に発信する。
・ 家庭学習の定着を図るため、学習方法や自学ノートの参考例、計画の立て方等を児童はもちろん家庭に積極的に発信する。
・ 「家庭学習チャレンジ週間」を継続・活用し、家庭学習の習慣化を今後も図っていく。